

この神三天をあらはし居るは我が国の軍神をあらはし
曰九百八十の軍神と昔よりいひあはるなり
此神を又是をあらはし居るなり

之を曰佛家の位九百八十の軍神と云ふは三宮荒神
の眷属あり是より九億九百八千七百七十二神
有常あり界あり九百八十の軍神と云ふは三宮荒神の
三宮神あり是は神の降臨ありは皆荒神の山あり
神也人の家ありは降臨ありは皆荒神の山あり
過き荒神をあらはし居るは九百八十の軍神と云ふは
在荒神をあらはし居るは九百八十の軍神と云ふは
荒神をあらはし居るは九百八十の軍神と云ふは

上古の書あり九百八十の軍神と云ふは中古の
平合戦の物語にあり九百八十の軍神と云ふは
あり神ありは降臨ありは皆荒神の山あり
神也人の家ありは降臨ありは皆荒神の山あり
過き荒神をあらはし居るは九百八十の軍神と云ふは
在荒神をあらはし居るは九百八十の軍神と云ふは
荒神をあらはし居るは九百八十の軍神と云ふは

大日貴命 武甕槌命 経津主命
マホアナムチ タケミカフチ フヤヌシ

是也此之神は神代の大御軍ありて無神を任代りて
一勲功大あり事日本能神代言ひ詳ゆり之より日
此武士の法之神をくも軍神とくもあつてまゝあれ
何と天竺の神を多し事ありんが大巴昔命の大和
三輪大御神也武甕槌命の志麻呂大御神也
経津主命の志麻呂大御神也武士の改三神を言
ふ事古くあり

曰八幡大菩薩神也武田宿禰を軍神と云
徑ありぬ

答曰神代の軍神を初り祀す也一人代りて天
子より神武天皇を累代りて皇孫天皇
八幡官 是也 是日本

武尊神即皇后又臣中あつて宇麻志麻呂命道臣命
武田宿禰等何れも軍を率ありて遂に神代に
あつて武徳成りてあつて神代の軍神と云
合せあつて事人の好む中より清和源氏
備仲義光等我義家ホより彼一流代りて
あつて之清和八幡を言ひ神を言ひ軍神言
ひ云と云神を言ひ世に言ひて武士は
神の八幡をより外にありて思へり
問曰軍神と武神と弓矢神と云ふは
答曰武尊と弓矢の及ぶ武士を弓矢の
道に軍の爲也を言ひて云ふは

問曰軍神の形は武運強弱を軍の強弱に依る事
うらまひの如く中々如何

答曰然し然し但人よりよき者

又曰人よりよき者こそや

答曰武運も人心も運も一なるも一なるも思惟を施す常

武運の心裁も一なるも一なるも思惟を施す常

神の助成も一なるも一なるも思惟を施す常

常も一なるも一なるも思惟を施す常

又曰正直なる者も持て

又曰正直なる者も持て

前々古事本恩信を施すは常々武運の心も

多し神の形も一なるも一なるも思惟を施す常

神の助成も一なるも一なるも思惟を施す常

常も一なるも一なるも思惟を施す常

又曰然し然し必勝あり

又曰然し然し必勝あり

如何

答曰前々も一なるも一なるも思惟を施す常

常も一なるも一なるも思惟を施す常

武運の心裁も一なるも一なるも思惟を施す常

神の助成も一なるも一なるも思惟を施す常

常も一なるも一なるも思惟を施す常

侍りし軍神と云ふの神靈口氣お感さるる事
必し形も強き事疑ふは流傳へ悟り
又問曰於文疑り捕面成の良形も出さる
事古今の人知る事武及於一事の
不善ありし事切を道さるる討死せり
軍神の加護ありし事何
答曰は事天命也俗を運也天命は何處に在り
と云ふ人の知る事測り難く故に人天命を
思ふ事人の知る事也天命は何處に在り
事百歳も長き事思ふ事思ふ事思ふ事思ふ事

我々水中の中は入る人ぬる事
新しき養育も思ふ事
士心力の及ぶ事心力を以て武道を修む武
備を修む人事を以て天命を以て事也天命を
加護を以て事也天命を以て事也天命を
神力を以て事也天命を以て事也天命を
也事也天命を以て事也天命を以て事也
也事也天命を以て事也天命を以て事也

問曰古き物語は今我の日記神も教はる事
也軍神も血もあはる事也血もあはる事也
答曰血もあはる事也軍神も教はる事也

と云ふ又或は神は御軍地蔵菩薩を軍神とすといふ
は其の説也何

答曰いふは古事因縁ありて其国の神を以て
天竺の四王を其神の形を軍神とすといふは我
也用はるるなり

問曰軍神を云ふは亦像にては五像ありて何

是を云ふは其の像の辨ありて何れか

答曰其の像は佛ありて其の事は佛ありて其の事

事也像を以て佛ありて其の事は佛ありて其の事

は其の事は佛ありて其の事は佛ありて其の事

世の昔の人を像とすといふは其の形を以て大なる事あり

又神を云ふは我誠心とて其神靈を感通せん事と
云ふ也然るは像を以て其神靈を感通せん事と
云ふは像を以て其神靈を感通せん事と云ふは
像を用はるるなり

問曰武事ありて正月軍神は鏡鏡を以て

其日の候は鏡を以て其神靈を感通せん事と云ふは

是も白澤の武士の身を白み矢に射戦を防禦益を

以て軍神の事ありて其神靈を感通せん事と云ふは

神ありて其神靈を感通せん事と云ふは

備はるる事ありて其神靈を感通せん事と云ふは

草は雜叙を難曰大明神の神神ありて其神靈を感通せん事と云ふは

大明神の神降し〜神意叙と庶民大明神の
神降し〜みあらしめ〜

安永十年正月二日

伊勢平藏貞丈記

大田より歳々多事今年四月書詔也
伊勢平藏

梅檀尾問答

伊勢平藏貞丈著

一 或問を續のおりてを後しものたは梅尾板を用ひ有
梅板を用ひあるは〜
○ 是より此事古書にありては〜
伊〜
所〜
と〜
此屋の板を〜
の〜
〜